

2026年7月

白井なおこ レポート VOL.32

日野・生活者ネットワークニュース 白井なおこREPORT 発行日：2026年7月1日
発行：日野・生活者ネットワーク 発行責任者：出沼恵美子
〒191-0062 日野市多摩平2-3-12 中央日石ビル4階
TEL:042-514-8695 FAX:042-514-8697 E-mail:hino-net@cap.ocn.ne.jp



民主主義コースフェスティバルに参加(5月17日@下北沢)。
生活者ネットのブースにも多くの若者が訪れました(右端:白井)



田んぼのある風景を次世代に ～農業者と市民の協働を広げていこう!～

田んぼを吹く風は、実に心地よいですね。子どもの頃はあちらこちらに田んぼがありました。しかし日野市では5ヘクタールと10年前より半減し、このままでは消滅してしまいそうで心配です。令和の米騒動で米の価格への関心は高まりましたが、「農」と「食」、「生産者」と「消費者」がより近くなることが大切と考え、質問・提案しました。あわせて、女性相談・支援の体制についても質問しました。

東京の田んぼ復活プロジェクトとは



都内の水田の保全や活用を目的に東京都が今年度から始めた補助事業です。農業者や都民、行政などが連携した「**協働活用組織**」が対象で、期間は3年間。日野市の団体(日野の田んぼをつなぐ会)も採択されました。

嬉しいですね!市は広報などで支援するとともに、これを機に**農業の現状や重要性への理解**を深め、**今後の農地保全や持続可能な農業の推進**につなげていきたいとのことですので、あらゆる角度から気運の醸成を求めました。

市の「田んぼの学校」に参加している方より「米作りをやってみて、お米が高いなんて言えなくなった」との声をいただきました。作り手になることで視点が変わる、とても大切な気づきだと感じます。

相続が及ぼす農業への影響

田んぼも畑もここまで減少した要因のひとつは「**相続**」です。都市部では、地価が高いため相続税の負担が

大きく、土地を手放さざるを得ない事例が多く発生しています。今年の日野市の都市農業シンポジウムのテーマでもありました。

現行の制度では農地の継承が難しいことから、市も農業関連の協議会を通じて要望を出しているそうです。日野市長からもぜひ!と働きかけを求めました。

市長より水田の風景の必然性は高いと、気持ちのこもった答弁を得ましたので、行動に期待します。

女性のSOSが、より届くように

誰かと話がしたい、聞いてもらいたい—そんな時には、市の「女性相談」があります。相談から見てきた課題を政策につなげるための**年次報告**や、**女性相談支援員との連携強化**などについて、質問・提案しました。対象性別は問わないので、「女性相談」という名称には市も課題を感じているようです。名称だけでなく、**女性支援新法の理念を反映した相談・支援体制**となるよう、全体的な見直しを求めました。

白井なおこもご相談をお受けしています。HPの「お問い合わせ」からご連絡ください。



日野市女性相談は
こちらから

